

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」長岡古正寺校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 28日 ～ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年 11月 28日 ～ 2025年 12月 1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さまが楽しんで通ってくれており、安心する場所、居場所の提供ができています。	・ 普段の支援の充実 ・ 支援内でのコミュニケーション(学校での様子や家庭での様子についての聞き取り)	・ 指導員の保有資格を活かした支援内容の検討・充実 ・ 自己肯定感を高めたり、達成感を感じたりできるような関わり ・ 支援教材、おもちゃの充実
2	お子さま一人一人に合った支援の提供	・ アセスメントシートを用いてのお子さまの状態の聞き取り ・ 指導員間での支援の状況やお子様様の様子の情報共有 ・ 支援記録の内容の充実	・ 普段のフィードバック内でのお子さま様の様子の聞き取り ・ ケース会議を定期的に行い、支援状況や目標、支援内容についての検討
3	保護者様の悩みに合わせた支援の提供	・ 支援後のフィードバックでの情報共有 ・ 相談支援事業所との連携	・ 普段のフィードバック内での家庭での様子、学校での様子の聞き取り ・ 必要に応じて家族支援の実施 ・ 園や外部機関との連携

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援プログラムの柔軟性	・ 『継続した支援の提供』に重きを置きすぎた結果、プログラムが固定化されてしまっている。	・ お子さまの発達に合わせたプログラムの組み立て ・ 事業所内でのケース会議の実施。課題達成度や次の課題についての話し合い。 ・ 保護者様の悩みに合わせた支援内容の検討
2	保護者支援の充実化	・ 保護者同士の関わり場の設定できていない。 ・ フィードバックがその日の支援の様子を伝えるだけになってしまっている。	・ 定期的なママカフェ(保護者交流の場)の設定 ・ 支援後のフィードバックにて、支援の様子だけでなく普段の様子での聞き取り・傾聴
3	各種マニュアルや防災訓練、教室の広報活動の周知	・ 訓練については予定を掲示しているものの、見てもらえていない。 ・ 教室SNSの存在が周知されていない。	・ 保護者様の目に留まりやすいよう、掲示板を作り、掲示。そこにSNSの紹介や実施予定の行事等張り出していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」長岡古正寺校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 17名

回収数 17部

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	1	0	0		教室整備を心掛け、活動スペースの確保に取り組んでいきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	2	0	1		支援に入っている職員以外に、フリーで動ける職員を配置し、お子様対応にあたっていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	3	0	0		ポスターの掲示や写真を用いてお子さまが見て分かりやすいような環境を整えていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	1	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	1	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1	0	1		定期的にケース会議を実施することで教室内で支援プログラムの検討を行います。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	0	0	1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	1	0	2		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	1	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	4	1	1		保護者様の悩みに合わせた支援内容の検討、教室間での課題達成度の共有を行っています。学校やご家庭でお困りのことがありましたら都度ご相談いただければと思います。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3	2	8	こちらがそれを望んでいません。	今後はお子さまの通われている園との情報共有、園見学など積極的に行っていきたいと考えています。また、他校舎との合同イベントなども実施可能ですので、実現ができるよう計画してまいります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	1	0	0		保護者様が安心して「きらり」の利用ができるよう、丁寧な説明を心掛けていきます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	1	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	1	2	4		今後は保護者様同士で関わるができるようなイベントの実施を計画していく予定です。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	15	1	0	1	十分な連携をしてくださっています。ありがたいです。	支援後のフィードバックの時間を活用し、お子さまの情報共有ができたかと考えております。些細なことで構いませんので何でもお話しください。また、教室内で情報共有も密に行っています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	3	0	1		家族支援も行っておりますので、ぜひご活用していただきたいと思います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	0	0	1		普段のフィードバックの時間を充実させていきたいと考えております。保護者様の悩みと一緒に解決していけるよう、教室間での情報共有、関係機関との連携に力を入れていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	6	2	5		今後は保護者様同士で関わるができるようなイベントの実施を計画していく予定です。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	1	0	2		家族支援も行っております。教室内に掲示板を作り、そちらに案内を掲示予定です。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1	0	5		教室SNSも行っております。教室内に掲示板を作り、そちらに案内を掲示予定です。また、自己評価の結果等は今後発信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16	1	0	0		個人情報の取り扱いには厳重に行っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	0	1	4		きらりでは毎月防災訓練を行っております。教室内に掲示板を作り、そちらに案内を掲示予定です。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1	1	5		きらりでは毎月防災訓練を行っております。教室内に掲示板を作り、そちらに案内を掲示予定です。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	0	1	1		きらりでは毎月防災訓練を行っております。教室内に掲示板を作り、そちらに案内を掲示予定です。また、お子さまの安全を第一に教室環境を整えていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	0	1	1		事故や怪我が発生した場合にはすぐに保護者の方へ連絡をさせていただきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	0	0	0		今後もお子さまが安心して通える場になれるよう、職員一同サポート体制を作っていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	0	0	0	大好きな先生がたくさんいるからか、通所をいつも楽しみにしています。ありがとうございます。	今後もお子さまが楽しんで通える場になれるよう、運営していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	1	0	0	古正寺のあたたかな対応と支援を受けてありがたく思います。	お子さま一人一人に合った支援の提供ができるよう、アセスメントシートの活用、教室内での連携、保護者様との情報共有に力を入れていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」長岡古正寺校				公表日		2026 年 2 月 14 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		3ブース設置しており、安全を確保できる空間づくりをしている。	教室内整備を心掛けていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			お子さま対応や支援準備の切り替え、支援ブースに準備等で人員が足りないときがある。空きの職員の配置やフィードバックの工夫が必要。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		飛び出し防止や片付けのポスターを掲示している。	おもちゃや教材を片付ける場所などわかりにくいいため、写真を用いて分かりやすいように準備をしていく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		掃除分担を決め、どの場所も清潔を保てるよう意識している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		基本的に支援は1階で行うが、必要に応じて2階の個室を使用可能としている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		目標設定やそのための行動、振り返り等事業所内ミーティングを設定して行っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の配布、事業所内での検討を行っている。	評価表の集計結果等を発信していく必要がある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		週2回の事業所内ミーティングの場を設けることで、話し合いの時間を作っている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今回実施した事業所評価の結果を事業所内で話し合い、業務改善につなげていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修には積極的に参加し、理解を深められるようにしている。			
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて支援プログラムを公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		計画作成会議を行い、職員全員で計画を検討できる場を設けている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画作成会議を行い、職員全員で計画を検討できる場を設けている。	全員が自分の考えをもって会議に臨めるよう、会議の進め方を検討していく必要がある。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画作成会議を行い、職員全員で計画を検討できる場を設けている。また、支援内容の検討ができるよう、ケース会議も実施している。	全員が自分の考えをもって会議に臨めるよう、会議の進め方を検討していく必要がある。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートを用いてのお子さまの状態の把握だけでなく、日々の支援の中での小さな成長や変化も共有できる雰囲気作りを行っている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画作成会議を行い、全員で計画の確認を行っている。	計画に基づいた支援内容の検討に力を入れていく。		

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		お子さまの情報共有を密にし、それぞれの職員の経歴を活かした話し合いを行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			毎回のフィードバック時に支援の様子だけでなく、園や家庭での様子について話せる時間を設けていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		○	小集団活動は未実施だが、課題後の楽しみの時間に子ども同士で関わりあえるように職員が間に入りながら見守りを行っている。	状況や年齢に合わせて小集団活動も計画していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日朝礼の時間を取り、特記事項やその日の内容の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼の時間がなかなか取れない現状のため、次の日の朝に前日の特記事項等確認する時間を設けている。	最終卒の支援や片付け等があり、終礼の時間が取れていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		3営業日以内に記録を残すことを徹底している。自分以外の時の支援記録も目を通し、お子さまの状態の把握をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			支援内容が固定化してしまうお子さまも多いため、検討が必要。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		年齢に応じて、課題の選択や教材の選択をお子さま自身ができるよう働きかけをしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議に積極的に参加し、情報共有を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	お子さまの通う学校の年間行事については都度調べて情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		現在そのような経験がないため、今後そうなったときには連携を取っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		現在そのような経験がないため、今後そうなったときには連携を取っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		こども家庭センターが主催する研修への参加など、積極的に関わりを持つようにしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		地域との関わりは事業所として行っていない。教室内での小集団活動や、きらりの教室同士での合同イベントなど実施していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援時に毎回フィードバックの時間を取っている。	支援の様子との共有は行えているが、普段の様子について話を聞く機会が少ない。こちらからも保護者の方に積極的にお話を聞く体制を作っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			保護者同士で関わる機会は作れていないため、今後計画していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学時、契約時に説明を行っている。	児発管だけでなく、そのほかの職員も丁寧な説明を行えるよう、教室内での研修を進めていく。

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者様への悩みや困り感の聞き取りを行い、それをもとに計画を作成している。	お子さまの意向もしっかりと確認し、計画に反映させていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の方より相談があった時には、相談支援事業所にも情報共有を行い、連携を取っている。	家族支援も行っていることがあまり知られていない。教室内に掲示板を作成し、そこに張り出す。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		保護者同士で関わる機会は作れていないため、今後計画していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		家族支援としてお話を聞くことも可能であることは都度お伝えをしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		Instagramやブログは頻度や担当を決め、機能していけるよう話し合いを行っている。Instagramのストーリーを毎日更新し、教室の様子を知っていただけるよう工夫をしている。	取り組んではいるが、認知されていないことが多い。教室内掲示板に掲示することで目に留まりやすいよう工夫していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は鍵付きの書庫に入れ、取り扱いに留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		そのような取り組みは行ったことがない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		訓練の実施予定を掲示している。	掲示はしているものの、見てもらえておらず機能していない。教室内掲示版に掲示し、目に留まりやすい工夫をしている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		お子さまの情報については見学・体験時に確認をし、利用前には教室内で共有ができる体制を整えている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		お子さまの情報については見学・体験時に確認をし、利用前には教室内で共有ができる体制を整えている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画の作成はもちろん、お子さまの安全管理を第一に支援にあたっている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			保護者様の目に留まるような形での周知が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		支援後や朝礼時に、起きたヒヤリハットについて共有をしている。	教室の安全整備を整える必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止についての社内研修に積極的に参加している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			